

令和7年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立きのくに青雲高等学校（通信制課程） 校長名：宮本 裕司

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・生徒の抱える様々な課題解決を支援し、生徒自身の自己肯定感や自己有用感を高め、地域社会に貢献でき、自らも幸福な生活を営むことができる力を育成する学校
- ・生涯にわたって自ら学んでいけるような学習意欲や態度を身につけた生徒
- ・自ら考え、決定し、行動する資質・能力を培い、社会に貢献する力を身につけた生徒
- ・社会においてより良い人間関係を築くために必要なルールやマナーなど社会性を身につけた生徒
- ・協調性やコミュニケーション能力を身につけた生徒

学校評価の公表方法

本校ホームページに掲載

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方針
1	学力の向上に向けて、「自学自習」を基本とし、個々に応じたきめ細かい学習計画を立て、多様な生徒に対応した学習指導を行う。	B	・生徒の学習の進捗状況を把握し、適切な個別指導を行う。	・多様な生徒に対応できる教育の創造に取り組んでいるか。（授業アンケート項目における「自学自習において各自の進捗に応じて、わかりやすく説明してくれる」において、A評価）	B	授業アンケート「自学自習において各自の進捗に応じて、わかりやすく説明してくれる」において、A評価 67.2%	生徒の学習状況を把握しながら、個々の理解度や学習進度に応じたきめ細かい指導を継続し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。通信制課程の特性を踏まえ、レポート指導やスクーリングにおける支援の充実を図るとともに、ICTの効果的な活用を通して生徒の学習意欲を高める取組を進める。また、授業内容や指導方法の改善について教職員間で情報共有を行い、組織的な授業改善を推進する。
			・生徒が興味・関心・意欲をもって学習が進められるよう、丁寧な添削、個々に応じたスクーリングなど指導内容の充実と努力を学力の定着に取り組む。	・わかりやすいスクーリングを目指し、学習内容の精選と充実と努力、学ぶ楽しさが実感できるようにできているか。（授業アンケート項目における「授業はわかりやすく、充実した指導を行っている」において、A評価）	B	授業アンケート「授業はわかりやすく、充実した指導を行っている」において、A評価 62.0%	
			・未登録の生徒や学習進度の遅い生徒に対して学習を促す。	・生徒とのコミュニケーションを深め、積極的な学習を促す。（講座登録率 80%以上、1人当たりの平均の単位修得率を 60%以上）	B	講座登録率は 71.4%であり、登録者について、1人当たりの平均の単位修得率は 42.6%（単位修得率－修得単位/登録単位）	
2	生徒の自主的・主体的な学習態度を育成し、社会とつながる学習の充実を図る。	B	・自らの将来について真剣に考えさせ、他機関とも連携しながら個々に応じた進路指導を充実させる。	・進路に関する情報提供を充実し、進路意識や勤労観を高め、将来への希望や夢を育てているか。（学校評価アンケートにおける項目「進路についての情報を知らされているか」及び「将来の進路や生き方を考える機会があるか」においてA評価）	B	学校評価生徒アンケート「進路についての情報を知らされているか」においてA評価 44%、「将来の進路や生き方を考える機会があるか」においてA評価 49%	生徒の進路希望を早期に把握し、個別面談や進路相談を通して、段階に応じたきめ細かい進路指導を体系的に実施する。外部講師や卒業生の講話などを通して、生徒が将来の進路や生き方について主体的に考える機会を広げる。また、企業訪問や関係機関との連携を継続し、生徒の適性や希望に応じた就職支援の充実を努める。さらに、学校行事やクラブ活動の内容や実施方法を工夫し、生徒が主体的、積極的に参加できる学校活動の活性化を進める。
			・自己実現に向けて前向きに捉える意識を育て、生徒の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培う。	・社会とつながる学習の推進を図れているか。（就職担当による企業訪問数がのべ 500 社以上、応募前職場見学率 100%、就職内定率 90%以上）	A	就職担当の企業訪問数は 519 社であり、様々な企業との連携はできている状況にあるため、生徒の適正にマッチングした就職を斡旋できている。また、就職希望者の応募前職場見学の実施率 100%、就職内定率 100%	
			・スクーリングや各種学校行事を通じ、基本的な生活習慣の確立を図ると同時に社会性を養い、生涯にわたって自ら学ぶ姿勢を醸成する。	・クラブ活動や学校行事等への積極的な参加を促しているか。（学校評価生徒アンケート項目において「役に立つ様々な生活体験ができているか」及び「生徒会活動や部活動に積極的に取り組んでいるか」において、A,B評価）	B	学校評価生徒アンケート「役に立つ様々な生活体験ができているか」において肯定的 (A,B) 評価 67%、「生徒会活動や部活動に積極的に取り組んでいるか」において肯定的 (A,B) 評価 49%	

学校関係者評価

学校関係者（外部）へのアンケートは、学校運営協議会委員及び同窓会役員を中心に依頼している。学校運営協議会は年間4回本校で開催し、本校の教育活動や課題について説明するとともに、生徒との交流の機会も設けている。また、同窓会役員会においても年間4回本校で開催し、学校の取組状況を共有し、意見を求めた。全体として概ね肯定的な評価が得られているが、学校行事や生徒会活動の活性化、ICTを活用した教育活動の一層の推進については、改善を求める意見も見られた。生徒による学校評価については、単年度の結果のみで判断するのではなく、経年変化を踏まえて分析することが重要である。本年度は進路指導や広報活動において一定の成果が見られた一方で、生徒会活動や部活動への参加状況においては改善の余地がある項目も見られた。通信制課程の特性を踏まえ、生徒一人ひとりの学習状況に応じた支援を充実させるとともに生徒が主体的に学校生活に参加で

3	地域や保護者との連携を密にし、開かれた学校づくりを推進するとともに、生徒の生活実態を把握し、学習活動を高める	B	・SC、SSWを活用するとともに、外部機関と連携を強化する。また、若者サポートステーションにおける校内相談窓口の活用推進を図る。	・個々の生徒に応じたきめ細かい指導の充実を図れているか。(SC、SSW 及びサポステ相談会の活用率を 100%)	B	勤務日における SC 及び SSW の稼働率が 100%であり、SC については今年度 30 時間以上の追加配置がなされた。また、サポステ相談会の活用率 30%	SC や SSW 等の専門家との連携をさらに深めたことで、生徒および保護者への相談支援体制の充実を行うことができた。一方、サポステ相談会の活用率は 30%にとどまっており、生徒や保護者への周知を強化し、さらなる強化を目指す。 また、オープンスクールや懇談会等を通して保護者や地域への情報提供を継続するとともに、学校ホームページ等を活用した広報活動をさらに充実させ、本校通信制課程の教育活動への理解促進に取り組む。	きる取組を進めていくことが求められる。 保護者による学校評価では大きな変動は見られないものの、学校からの情報発信や意見交換の機会についてさらなる工夫が必要であるとの意見もあった。 教職員の自己評価では、ICT の活用や校務の効率化に向けた取組が進められているとの評価が見られた。今後はこれらの取組を一層推進し、生徒の学習活動の充実につながるるとともに、校務の効率化を組織的に継続して進めていくことが重要である。
			・オープンスクール、保護者懇談月間、保護者と語る会等を実施する。	・家庭や地域、関係学校や機関との連携を密にし、本校についての情報を提供できているか。(オープンスクール 160 名以上、保護者懇談月間 50 名以上、保護者と語る会 20 名以上)。また、学校評価生徒アンケート「保護者等と情報交換したり、協議したりする機会を設けているか」において、A,B 評価。	B	オープンスクール 154 名、保護者懇談月間 51 名、保護者と語る会 5 名参加。また、学校評価保護者アンケート「保護者等と情報交換したり、協議したりする機会を設けているか」において肯定的 (A,B) 評価 63%		
			・校報やホームページ、マチコミメール等による広報活動を充実させる。また、中学校や他の高等学校等に対して必要な情報を提供する。	・さまざまな機会を利用して情報の発信を行えているか。(ホームページ閲覧数 10 万回以上、ユーザー数 10000 人以上、マチコミメール配信数 40 回以上、ホームページ更新週 1 回以上)。また、学校評価保護者アンケート「本校通信制のシステムについて十分に PR できていると思いますか」において、A,B 評価。	A	令和 7 年度のホームページ閲覧数 14 万回、ユーザー数 1.7 万人、マチコミメール配信数 41 回、ホームページ更新週 1 回。県教育委員会 note 投稿 17 回。また、学校評価保護者アンケート「本校通信制のシステムについて十分に PR できていると思いますか」において肯定的 (A,B) 評価 65%		
4	・ICT を積極的に活用し、生徒の情報活用能力の育成及び教職員の業務の効率化を図る。	C	・教員が、スクーリングにおいて ICT を活用した授業を実施する。	・教育効果を上げるために、ICT を活用しているか(授業アンケート項目「スクーリングで ICT 機器を使用するときがある」において、A,B 評価)	B	授業アンケート「スクーリングで ICT 機器を使用するときがある」において肯定的 (A,B) 評価 62.6%	校内研修等を通して教職員の ICT 活用指導力の向上を図り、授業における効果的な ICT 活用を一層推進する。また、ICT を活用した校務の効率化を進めることで業務改善を図り、教職員が生徒と向き合う時間の確保につながる。 さらに、授業や学習活動において生徒が ICT を活用する機会を広げ、生徒の情報活用能力の育成を促進する。	
			・ICT を活用し、教職員の業務の効率化を図る。	・業務の効率化を図ることで、生徒への対応時間をより多く確保することができるか(校務の効率化アンケート項目「自己目標をもち子供と向き合う時間の確保ができているか」において、「達成できた」の割合が 90%以上)	C	校務の効率化アンケート項目「自己目標をもち子供と向き合う時間の確保ができているか」において、「達成できた」の割合 45%		
			・ICT の活用に関する情報提供を行うとともに、生徒の情報活用能力の向上を図る。	・ICT を活用することで、生徒の主体的な学びを促進できているか(授業アンケート項目「スクーリングやレポート作成で生徒がコンピュータを活用する機会がある」において A,B 評価)	C	授業アンケート「スクーリングやレポート作成で生徒がコンピュータを活用する機会がある」において肯定的 (A,B) 評価 39.3%		